佐伯通信

2012年5月(平成24)
第10号
発行
佐伯泰英事務所
担当／角川春樹事務所
禁・無断転載

児玉清さんと時代小説

写真提供・佐伯泰英事務所

愛書家の児玉清さんが亡くなって一年が過ぎた。その追悼に遺稿集『すべては今日から』が発売される。児玉さんは時代小説家として佐伯泰英を世に知らしめてくれた恩人だ。「佐伯本が面白いよ」とラジオやテレビで繰り返し取り上げてくれたお蔭でなんとかこの世界に生き残れたからだ。だが、あのダンディな紳士が時代小説をなぜという疑問がずっとあった。児玉さんといえばD・フランシス、J・ディーヴァー、K・フォレットなど錚々たる海外ミステリーの紹介者として有名だった。むろん時代小説も認めておられたが、それは藤沢周平など亡き大御所だった。それがなぜ……。遺稿集を読んで、児玉清の愛書遍歴のきっかけは講談本だというのが分かった。

佐伯泰英／近刊のお知らせ

2012年 6月 14日発売予定

《双葉文庫》
39 **居眠り磐音 江戸双紙**
『秋思ノ人』

2012年 7月 28日発売予定

《新潮文庫》
4 **新・古着屋総兵衛**
『南へ舵を』

2012年 8月 2日発売予定

《幻冬舎時代小説文庫》
18 **酔いどれ小籐次留書**
『正宗の遺品(仮)』
「佐伯通信」第11号が入ります。
(初版、初回出荷分限定)

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
http://www.saeki-bunko.jp　佐伯泰英 ウェブサイト　検索

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと年六回発行いたします。
㈱角川春樹事務所、㈱幻冬舎、㈱講談社、㈱新潮社、㈱双葉社、㈱光文社

幻の桜を求めて

㈱角川春樹事務所 第一書籍編集部　齋藤　謙

4月、5月といえば桜の季節である。桜は、日本人の心に最も深く刻みこまれている花といっても過言ではない。そんな桜の時期は、なにやら心が躍るものである。「鎌倉河岸捕物控」において桜といえば、豊島屋の前の八重桜を思い浮かべる読者の方も多いだろう。そう、ヒロインのしほが、辛いときは悩みを打ち明け、あるときは胸に秘めた願いを祈るあの老桜である。満開の桜の前で祈る姿の美しいしほを想像した途端、私にある閃きが浮かんだ――その桜を見に行こうではないか。古地図と現代地図を片手に、神田駅に降り立った私は、鎌倉河岸のあったところへと向かいはじめた。だが、線路沿いから竜閑橋を抜けたところで、不安が過ぎる。ビルばかりである。そして豊島屋跡地にたどり着いた私は、恐ろしい光景を眼にしてしまった。そこにあったのは……。

竜閑橋

枯れた木を目の前にしながら、私は幻の桜を思い浮かべ、しほの幸せを祈るのだった。

豊島屋の跡地

幻の桜の正体は

『鎌倉河岸捕物控』一の巻～二十の巻　ハルキ文庫　文・小・時・廊・説・代

戦時下に接した剣豪物語本の虜になったのが縁で父上に講釈場に連れていかれるようになったと書いておられ、ようやく得心した。私の時代小説は男女の機微、主従の絆を細やかに描写する作風ではない。児玉さんは時代小説の面白さを「だれもが苦難と困難を乗り越え、創意工夫を凝らして独自のユニークな新剣法を編み出すそのプロセスの滅茶面白さ」と喝破したが、私のシリーズも講談本の痛快さにあるのだろう。そのへんを佐伯本に認められておられたのではないかと思っている。ともかく児玉清の真髄が垣間見える『すべては今日から』(新潮社・四月末発売)です。

初のエッセイ集を岩波書店から六月二十日発売で出版します。二年に渡って『図書』に連載した「惜櫟荘だより」を大幅加筆しました。久しぶりのハードカバー、楽しみです。乞う、ご期待!

出版社からのお知らせ

《ハルキ文庫》
「鎌倉河岸捕物控シリーズ」20巻突破記念フェア!
『宝引きさわぎ』刊行にあわせ、全国書店にてフェアを開催します。

《双葉文庫》
「居眠り磐音 江戸双紙」フェア開催!
第39巻発売に併せ、「居眠り磐音 江戸双紙」フェアを開催いたします。全国書店にて6月中旬開始予定。

「佐伯通信」第11号は、8月2日刊行予定の『酔いどれ小籐次留書18 正宗の遺品(仮)』(幻冬舎時代小説文庫)に入ります。